非常停止したエレベーターで…
義父と暗闇SEX
GICHICHI TO KURAYAMI SEX
OUMA

義父と
密室
エレベーターで…
調教SEX!
完全版
エロマンガ島

はぁ…
帰るのやだなぁ…
家が落ち着く場所じゃなくなったのはお母さんが再婚してからだろうか…
有水(ありみず) みつき
(旧姓)倉元(くらもと)
着替えの途中で部屋に入ってきたり…
お気に入りの下着も一枚無くなってたし…もしかして…
私の養父…有水(ありみず)清(きよし)…
彼の視線が最近少しおかしいのだ…

おや？
今帰りかい？
ビクッ
ヌッ
!!

こんな時間まで
部活か？
有水清（ありみずきよし）
みつきの母の
再婚相手
やだ…
二人きりだ
なんて…
はい…

女の子なんだから
あまり帰りが
遅くなるのは
感心しないな
はっはい…
気をつけます
……
有水さんも
遅くまで
お疲れ様です…
みつき…
家族なんだから
そろそろ
お父さんと
呼んで欲しいなぁ
……

はは…
私やっぱりこの人のこと苦手だ…
オーンッ
ガーッ
今日のご飯はなんだろうね？
お母さんの料理は美味しくて毎日帰るのが楽しみだよ
下着のこと確かめたいけど…でもそんなこと聞いたら…
そ そうですね……
!!
ガタッ
えっ!?
ビクッ

うわっ！
なんだ…
故障か!?
え!? 故障？
エレベーターが
止まるなんて…
!!
フッ

停電か…
参ったな…
大丈夫か？
みつ…
みつき？
どっ…どうしよう
私…暗くて狭い
ところ苦手なのに…
だっ…
大丈夫です…
ガクッ
ガクッ
ニヤッ

大丈夫かい？
こっちへ
寄りなさい…

あぁ みつき…
ずっと見てるよ
毎日毎日…

本当に
いやらしい
体だ…

スッ

!!

ビクッ

バッ

だっ大丈夫
ですからっ！

ニヤッ

寂しいこと
言うなよ…
家族じゃないか

スッ

!!

暗いなぁ？
そこに
いるのかい？

少しは
お父さんのこと
頼って欲しいなぁ…

グイッ

な…なっ…
何するんですか!?
空調が止まった
みたいだ…
このままでは
熱中症になって
しまうだろ?
グイッ
すまんすまん
暗くて手元が
見えなくてね…
少しボタンを
外しなさい
楽になるから
うそっ…
信じられない…
何言ってるの…?
可愛い
下着だねぇ…
ひっ!
プチッ
グッ

なっ…何っ…
おっお母さんに
言いますよ！
お母さんに？
グイッ
グニ
グニ
グニッ
キャッ！
いやぁ!!

せっかく幸せな家庭が
築けたと思ったら
夫がこんなことを
しているなんてね…
お母さんが幸せで
いられるか
不幸になるかは
みつき次第なんだよ
……

お母さんが
こんなこと
知ったら
…悲しむ
だろうなぁ…
グッ
グニッ
グニッ
!!

わたし…
次第…？

あっ
んふっ
ほらぁ気が紛れて
楽になるだろぉ…
素直になりなさい…
えっ…!!
嘘…この人…
何してるの!?
んっ
いやぁ
ん
ちっ…力が
強くて
抵抗出来ない
!!
おや
これは汗かなぁ?
濡れてるじゃ
ないか…

ちょ…
ちょっと…
本当にやめっ…
暑いなら
もっと
脱がさないと
なぁ…
きゃっ
ズルッ
ガチャ
カチャ
カチャ
カチャッ
んっ
どんどん
汗が溢れて
くるぞぉ…
あっ
なっ…何!?
この感じっ…
こんなところ
誰にも触られた
ことないのにっ
ガバッ
!!

キャッ
ガタンッ
ガラッ
いやっ！
やだっ！
こわい！
グイッ
そうそう
素直に
なればいいんだ

ちっ違っ
これは…
レロン
嘘…
嘘でしょ…!?
有水さんに
こんなこと
されるなんて…
キャッ！
グリンッ

どっ…どうしよう…お母さん…いや…警察？
ピチャ
んっ
ピチャ
んっ
レロッ
あっ
レロ
ビクッ
ビクン
やだ…舌が…あそこを這いずり回ってるっ…
あっ
ん
チュパッ
チュパッ
ひぐっ
ビク
ビク
あ
レロッ
あ
レロッ
待っていた…この時を…ずっと待っていたぞみつき…
ニヤッ
スッ
カチャ
カチャ

ズイッ
ひっ!!
ボロン
ビクッ
ビクッ
えっ…?
嘘…でしょ…!
こんなの…
見たことないっ…
ゾクッ
いい顔だ…
みつき…
もっともっと君の
いろんな表情が
みたいよ…
いやだ…
こわいよ…
どうしたんだい
そんな顔して
……
スッ

僕は家族のことを愛しているんだ…
どうした？なぁにスキンシップだよ家族同士の当たり前のね…
いやっ！
もちろんお母さんのこともみつきのこともね…
クイッ
いやっ！
やだ股の間に…入ってくる…
ニヤ

んっ
いやっ！
ズッ
ズッ
えっ!?
ちょ…待って…
これって…
あっ
ビクッ
ビクッ
やだ…
スゴイ
こすれてる…
か…家族に
こんなことっ…
するなん…あっ！
ビクッ
きっ…
気持ち悪いっ…
ビクッ
家族だから
するんだよ!!
ズプッ
私 何されてるの…？
ズプッ
大丈夫ですか？
停電のようです
ただ今復旧作業を…

大丈夫ですか？
聞こえてますか？
!!
たっ…
みつき次第…
だめだ…
言えない…
ワイッ
さぁみつきが
話すんだ…
いいな…
んあっ！
？
ビクッ
ウソッ！
ズッ

だっ大丈夫っですっ…
ズッ
ズッ
ズッ
んっでも早くっ…!!
もう少しです落ち着いてください！
お一人ですか？
ん
ズッ
ほらちゃんと話して…
一人じゃないです…んっ…でも…暗くて…
あっ
ビクッ
ズズッ
ひぐっ
やだっ…凄いこすれて…もう…
こっこわいっ！んっ
ビクッ
ズズッ

んあっ!!
ビクッ
ビクン
だめぇ!?
パッ
ガクン
ウィーンッ
ヘタッ
大丈夫かい？みつき…
スッ
ニヤァ
このことはお母さんには内緒だよ…

ビクンッ
僕は君達のことを愛しているんだ…
オン
ガーッ
ダッ
いやっ…！
ガチャッ
あら？
みつき お帰りなさい 遅かったわね
有水 美希（ありみず みき）
みつきの母
お母さん…！
お父さんも まだなのよ…？
スッ

ただいま…
……
あの子
どうしたのかしら…
スッ
みつき
バタン
翌日
ザー
駅
ニヤァ
なぁに
なんてことない…
なんてことないさ
お母さん？
ごめん終バス
乗れなかった
……
傘も忘れ
ちゃったし…
迎えに
来てくれるかな？

本当!?
ありがとう
じゃあ待ってるね
ゴオオオッ
お母さん！
ありがとう
スッ
ポイッ

ウィーン
スッ
ニヤ
迎えにきたよ
ウィーン
!?
みつき…
ゾクッ

ど…どうして…
有水さんが…
ギァァァ…
どうしたんだ…
早く乗らないと
濡れてしまうぞ…
ニヤッ
……
スッ

お母さんは
今ちょっと手が
離せなくてね…
またこんな時間まで
部活かい？
悪い虫でも
ついてるのかな…
そっ
そんなんじゃ!!

お願い…
早く家に…
着いて…
ギュッ
……
家…こっちじゃ
ないですよ…
ちょっと
お母さんに
頼まれごとが
あってね…
キィィ…
えっ
ブオン
あの…有水さん
どこへ？

ザアアア
有水さん…？
お母さんとも話し合ったんだがね…
カチッ
最近みつきの帰りが遅いのは…
何か家族にも言えないようなことをしてるんじゃないかってね…
!!
なっ何のことですか!?わっ私何も…
!?

私だって
信じたいさ
家族なんだからね
……
グイッ
いやっ！
!!
ガッ
だからこうして
確かめるんだよ…

やっ…
やめてください！
グイ
ムニ
ペロ
んっ
んっ！

んっ
ピクッ
イヴッ
シートベルトが
邪魔で動けない…
早くはずさなきゃ…
なぁに怖がる
ことはない
すぐに終わる…
グイッ
スッ
昨日もニュースで
やっていたよ…
家族に隠れて
体を売ったり
私っ！
そんなんじゃっ！
そうと知らずに
騙されて男の餌食に
なる子も多いって
言うじゃないか…
ペロッ

んんっ
スッ
やめっ!!
グッ
グニッ
グニッ
やめてくださいっ!
お母さんにっ…
本当にっ…
言いますよ!
何言ってるんだね
そのお母さんと
相談して
決めたことなんだ…

本当さ…
確かめて
みるかい？
そっそんな…
嘘っ…
お母さんが
そんなこと…
いやっ！
グニッ
ビク
グッ
ビク
たとえお母さんが
言ったとしても
こんなこと…
家族だって
やらないです！

でも…！
そんな風に
言うのは良く
ないな…
本気で心配して
いるんだよ
そんなに
ムキになって…
やっぱり
怪しいな…
そんな！
ムチャクチャ
です！

ちゃんと
確かめないとな…
ちょっ！
クイッ
くぱぁ

よく見えないなぁ
グッ
有水さん！やだっ！
グイッ
んふっ
んふっ
もっと近くで見ないとわからん…
本当に何もやましいことなんてないんです！
グイッ
どれどれ…ふむふむっ
色はキレイだが…
やめて…

もういいでしょ…
やめてください…
まだ
わからんなぁ
なんで
こんな
恥ずかしい目に
合わなきゃ
いけないの？
どれ
それじゃ…
中は
どうかな？
!!

あっ
んあっ！

指が…
入ってくる！
ひっ
クチュ
クチュ
みつきの入り口は
ギチギチだな…
本当に悪いこと
してないかい？
ししてません…
お願いですっ…
もうやめてください
……

いやまだ駄目だ
もっと
調べないとな…
そんな…
ヴィッ
んっ
ペロッ
クチュ
あっ
クチュ

あ
どうしようっ…
抵抗しないとっ…
ズチュ
あ
ズチュ
やめてっ
もう…
ズチュ
ズチュ
あっ
ビクン
んああっ！
ビクーンッ
チュポン
ビクーンッ
ニヤア
あふっ

—翌日—
んん…
寒気がする…
ピピピピッ
大丈夫？
ふぅ…
雨に濡れて
風ひいたかな…
熱あるし今日は
学校休んで
ゆっくり
してなさい…
うん…
何言ってるんだね
そのお母さんと
相談して
決めたことなんだ…
そんなはず
ないよね…
お母さん…

もう
そんなんじゃ
だめよ後で
果物でも買って
くるわね
バタン
ちゃんと
寝てるのよ

お母さん今日は
家にいるから
何かあったら
呼びなさい
？
何か
食べたい物
ある？
ありがとう…
でも今は
食欲ないから…

ブーン
ウィン
カチャ

はい有水です
お疲れ様です…
はい…えっ
今からですか？
ええ…
わかりました

ごめんね…
すぐに戻って
くるからね…
スー
スー

みつき…
お母さん急に
仕事が入って…
ガチャ
寝てるのね…

んん…
スッ
お母さんっ……
シーン
あれ…？聞こえないのかな…
スッ
んっ…暑っ…
ガチャッ
!!
こら…寝てないとダメじゃないか…
なっ…なんで有水さんが…!?
お母さんは急に日勤が入ってね…家を空けると連絡があったから様子を見にきたんだよ
でっでも有水さんだって会社が…

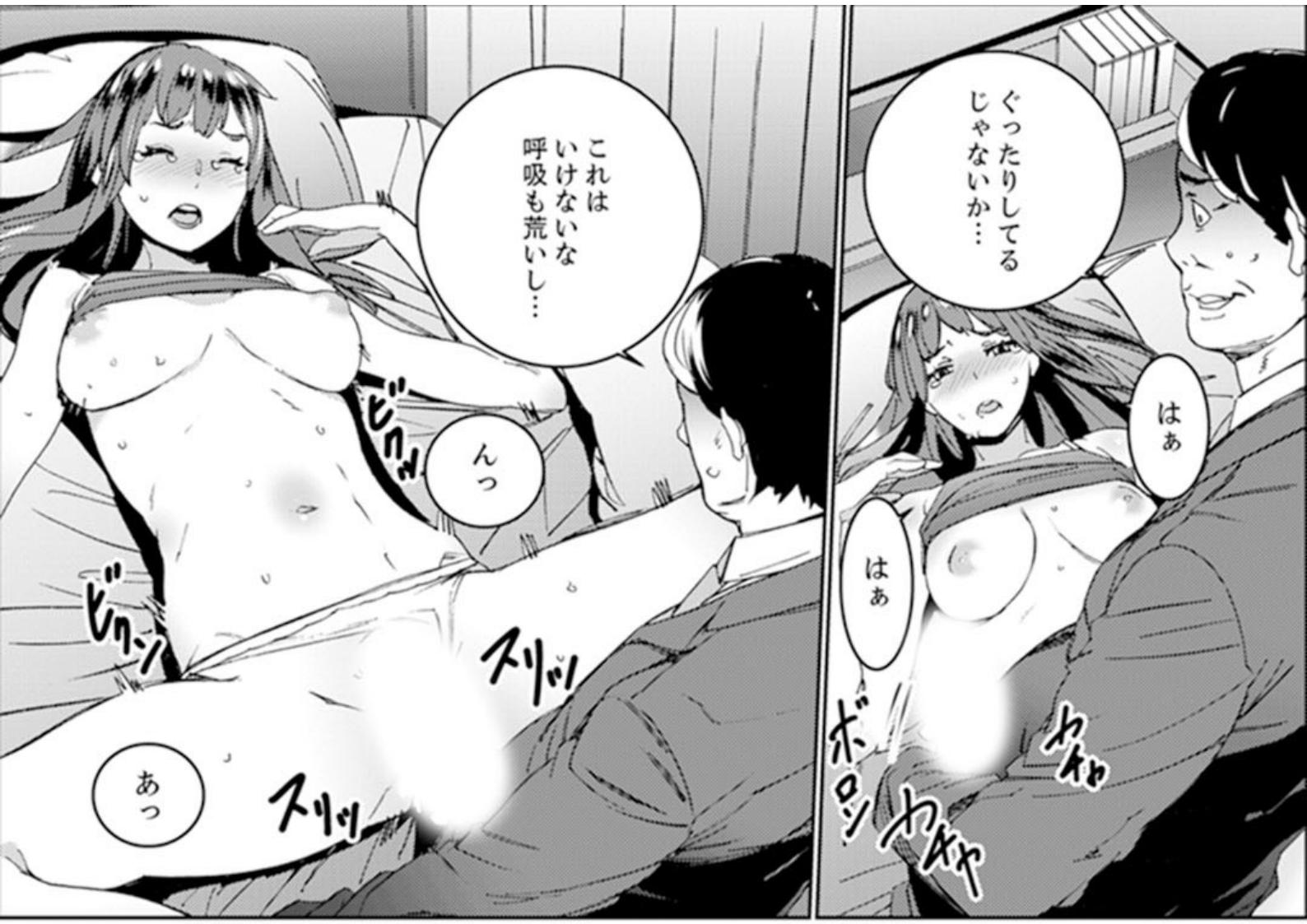
ニヤッ
なぁに言ってるんだ
家族が倒れているんだ
このくらい当然だよ…
ほら桃を剥いてきたよ
食べさせて
あげよう…
だっ大丈夫
ですから…
自分で…
スッ
遠慮しなくて
いいから…
パクッ
……
すごい汗
じゃないか…
ゴク
着替えないとな

やめて
ください…
だめだよ
ちゃんと汗拭いて
着替えないと
ほら…
大人しくして…
ドンッ
あ
んっ
だめ…
頭がボーッと
して…
あっ
力が
入らない…
グンッ
ピクッ
スッ

あれ？私…
今何されて
るんだろう…
んっ
クニッ
あっ
グニッ
さてと
下の汗も
拭こうね…
グイッ
あっ

こっちも
ビチョビチョ
じゃないか…
はぁ
はぁ
グッ
クイッ
しっかり
拭かないとな
今キレイに
してあげる
からね…

レロッ
チュパッ
私…熱出して寝てて…あれ…お母さんは…
あっ
あっ
チュパッ
んっ
チュパッ
んっ
もう…どうなってもいいや…
ビクッ
ビクッ
チュパッ
じゅる
じゅる
チュパッ
あっ
あ
グチュ
グチュ
グチュ
ズッ
ズッ
グチュ
大丈夫かいみつき…



ぐったりしてるじゃないか…
はぁ
はぁ
ボロン
わチャ
わチャ
これはいけないな呼吸も荒いし…
ビクッ
んっ
ビクン
スリッ
あっ
スリッ
元気になるようにお注射しようね…
あっ
グッ
ただいまー
ビクッ
わチャッ

お母さん！
ガチャッ
みつき…
具合はどう…？
あら…
あなた…帰ってきてたの…
もしかして私が電話したから？
仕事よりも家族の方が大事に決まってるじゃないか

桃を買ってきて
食べさせて
いたんだよ…
この人…
信じられない…
お母さんの前で
こんな…
ギシッ
ギシッ
ふふふ
あなたって
本当に
優しいのね
ここで私が
今までのことを
全部話せば…
でも…
ビクッ
お母さんが
こんなこと
知ったら悲しむ
だろうなぁ
ギュッ

それじゃ
夕飯の支度して
くるわね
みつきはおかゆが
いいかな？
私のせいで…
お母さんの幸せを
壊すことに
なったら…
ピクッ!
え？
待っ…!?
!!
そうだな
食欲も
ないみたいだし
それがいいな
じゃあ
ゆっくり
してなさい…
バタンッ

シーン…
……
どうしよう…
また二人きりに
……
スッ
ビクッ
ニヤッ
言えなかった…
また…
きゃっ
グイッ
ゾクッ

いや…
お母さん…
グッ
スル
スルッ
やだ…
叫ばなきゃ…
声出さなきゃ…
グイッ
あっ
んっ
あっ
いや…
お お母さんが
ビクッ
ビクッ
すぐそこに
いるんですよ
……
ヌプ
パッ
レロッ
んっ！
ビクッ

みつき…
お前が
悪いんだよ
お父さんと
お母さんを
心配させるから
……
スッ
そんな…
私…何も
ニッ
私達には
お前を監督する
責任が
あるからね…
!!
ひっ！
うそ…
本当に
入れる気…!?
グッグッ

いやっ…
だめ…
力が入らない
……
怖がらなくて
いいよ…
なぁ…
みつき…
グッグッ
んあぁぁあ!!
こんなのムリっ
入らないよ!!
ひぐっ!

んっ
ガッ
ガッ
んっ
んあっ！
パン
ギシ
パン
うそっ…
いやっ…
ギシ
ゾク
ニヤッ
ゾク
セックスだよっ！
んふっ!!
ジワッ
ズッ
ズッ
ズ
パン
ズッ
パン
こんなの…

初めてなのに
私の初めては
お養父さん
なの…!?
ズッ
グイッ
みつき…
ズッ
こんなに
いやらしい
体して…
やっカタイものが
当たって…
熱い…
グニ
ズッ
んあっ
グニッ
ひっ
ズッ
んっ

ビクッ
んっ あっ!!
ズッ
本当はいつも こういうこと してるんだろ!
はぁ
はぁ
グニッ
んっ
私… 本当にそんなこと …してません
ズッ ズッ
あっ 何か… くる…
ビクンッ
ズッ
ズッ
こんなに 敏感に反応 するのにか?
んっ

んっ
ズッ
ズッ
んっ
何これ…
ビクッ
んっ
カラダの
奥が…
変な感じ…
こみ上げて
くるっ!!
あぁ
みつき…
ようやく
一つに
なれたね…
この日を
ずっと
待っていたよ…
あっ
ビクッ
あっ
カッ
あふ…

んあぁあ!!
はあ
はあ
みつきっ!
ビクン
ビクビクビクビク
ひどいよ
こんなの…
嘘でしょ…
ビクッ
あぁ…
良い匂いが
してきたな…
そろそろ
ご飯だよ…
ズッ

こんなこと
誰にも相談
出来ないよ…
はぁ…
やっぱり
ここか…
スッ
こんなところで
何してるの？
安住くん？
安住 宗馬
みつきの同級生

はいこれ…
スッ
あ ありがとう
……
スッ
最近なんか
悩んでる？
教室にも
いなかったし
ちょー
えっ
別に…
私のこと
心配して
くれてるの…？
安住くん…
安住くんになら
有水さんのこと…
ん？
何考えてるの…
あんなこと
言えるわけない…
まさか
お養父さんと
初めてのセックス
しちゃったなんて…

……
倉本…？
そんなこと
言ったら
気持ち悪いよね
……
なあもし
良かったら…
なんだけど…
今度の土曜日…
……

立図書館
チラ

落ち込んで
ばかりだったけど
嬉しいな…

安住くんと
二人っきりに
なれるなんて…

もぞ
もぞ
もぞ

んっ？
どうかした？
あぁ
了解
私ちょっと
別の本
取ってくるね…
スッ
ふぅーヤバイ…
ドキドキし過ぎて
死んじゃうよ…
でもこれって
デート…？
あぁ駄目…
またドキドキしてきた…
落ち着いて
本探そう…
えーっと…

あっあった
スッ
ひっ!?
ニヤッ
ガッ
ダッ
ビクッ
あっ有水さん…
どうしてここに
スッ
駄目じゃないか…
みつき…

お父さんに
嘘をついて
男と二人きりに
なるなんて
わ…私
嘘なんて…
グッ
友達と
お勉強ねぇ…
こんなに
肌を露出して
お勉強かい？
!!
スッ
グイッ
キャッ
悪い子だ…
お仕置きを
しないとな…

あの男ともこんなことをしてるのか？

いやっ！

ガッ

プルン

そんな…安住くんとは何も…

こんな所で…やめて…

グズッ

ひぐっ!!

ヤリ

安住くんか…覚えておこう…

ズブッ

ビクンッ

んあっ！

やっ！
ズッ
んっ
こ…こんなところで…やめっ…
ニッ
ズッ
みつきが嘘をつくからいけないんだよ…
やましい気持ちがあったから嘘をついたんだろう？
そ…そんな…

わっ私…
嘘なんて…
んっ！
あんな短い
スカートを
はいて…
んっ
男を
誘って
いるのか？
安住君とやらも
何考えてるか
わからんだろ！
あっ
んあっ！

あっ…
安住君は
そんな人じゃ…
んっ
だめ…
グイッ
グイッ
あの年の
男なんて
女とセックスにしか
興味がない
獣みたいな
ものなんだよ！
んっ
グニッ
グニッ

まだ子供の
みつきには
わからないかも
しれないが…
でも
大丈夫だ…
あっ
ビク
グニッ
お父さんが
守ってあげる
からね
グイッ
ペロ
ひっ!!
チュ

こらこら…
図書館なんだから
静かにしなきゃ
駄目じゃないか
んっ
パッ
パンッ
んっ
んあっ！

こんなところ
誰かに
見られたら…
ガクッ
ガクッ
あっ
パンッ
パンッ
んっ
そんな…
パンッ
パンッ
んっ
ど…
どうしよう
……
ズッ
パンッ
ズッ
パンッ
んっ

や…やだっ
人がっ…
ビクッ!
ズ
!!
よっ
良かった…
気付かれ
なかった…
ホッ
ズ
もう離して
……

ズ
?
えっ?
!!
安住君…!

お願い…
こっちに
気付かないで…
チュパ
チュパ
ん？
倉本
ここに
いたのか…
ビクッ
戻ってこないから
心配したよ
ニュッ
安住君…
安住君の
目の前で…
こんなこと
されてるなんて…
グチュパッ
やめて
こっち見ないで
……
ガシッ

だめっ
早く席に戻って
…こんなとこ
見られたら…

チュプッ

チュパッ

ビクッ

もう
私…

ビクッ

みつき…

騙されちゃ
ダメだよ…

その男も
頭の中は

ボロン

セックスのこと
ばかり
なんだよ…

やっ…やめっ
ヴヴッ
ビクンッ
んあっ
ズッ
ズッ
ヤバッ
？
どうした？
へっ？
ううん…
だ大丈夫…
ズッ
ズッ

ズッ
ズッ
んっ
だめ…
声が
出ちゃう…
んっ
でも
ガマンしないと…
んっ
ばすっ
ばすっ
んっ
声を出したら
ばれてしまうぞ
それともいっそ
見せ付けて
やるか…？
ズッ
ズッ
ズッ
いや…
そんなこと
絶対…やだ！
んっんっ
ふむ…

そうか
それなら…
んっ!!
ズバン
ズッ
ズバンッ
ズッ
ガクッ
ガクッ
ちょっ
いやっ!!
ホラ
ガマンしなくて
いいんだよ

声を
出してもっ!!
ズッ
ズッ
倉本…?
やだ…
気付かれた
…?

大丈夫？
ううん
本当なんでも
ないから
そそう？
本見つかった？
待たせて
ごめんね…
もう少し探してから
戻るね…
そっか…
じゃあ先に
戻ってるね…
ズッ
ズッ
スッ

良かった…見られずに済んで…

なんだ残念だな！

イクところを見せたかったよ！

ビクンッ

ドプッ

チュポン

んあああぁ!!

ビクッ

ビクッ

んふっ…

こんなのひどい…

ドッ

またな…みつき…

スッ
おかえり…
本見つかった…？
倉本…
大丈夫？
顔色悪いけど…

具合悪いの？
ガタッ
ううん
ちょっと
貧血っぽい
かも…
最悪…
せっかく安住君と
二人きり
だったのに…
帰って休んだ
ほうがいいよ
途中まで
送っていくから…
うん…
ありがとう…

気にしないでよ
勉強し過ぎて
体壊したら
元も子も
ないだろ？
ごめんね
せっかく誘って
くれたのに…
安住くん…
みつき…
ズッ
ビクッ

こんなところで
何してるんだい？
有水さん!!
あっ…
……
ガヤッ
ガヤ
なんで…
また…

いつも娘がお世話になってるみたいだね
さぁさぁ好きな物を食べてくれ
なんだかすみません僕まで…
何も気にしなくていいよさぁどれにする？
なんで…何を考えてるの…有水さん…
どうした？みつき 顔色が良くないな？
また貧血？大丈夫か？

貧血…？
えぇ…
さっきも
図書館で
具合悪かった
みたいで…

でも
もう大丈夫
だから…
そうか…
この前も風邪
引いてたし
まだ完治して
ないのかもな…
安静に
してないと
駄目じゃないか
お母さんも
心配するだろ？
ごごめんなさい
……

なんで…
こんなことに…
お待たせ
しました…
さぁ
しっかり食べて
くれ
パクッ
このままじゃ
何があるか
わからないし
早く食べて
帰ろう…
もぐ
もぐ
安住君に
変なこと
言われたら
困るし
あっでも
ガツガツ食べる女
って思われたら
やだな…

もぐっ
もぐ
んっ？
安住君の
食べる姿…
初めて正面から
見たかも…
ビクッ
どうかした？
ううん！
なんでもない
!!
そうだっ
学校での
みつきはどうかな？
なかなか教えて
くれなくてね
男子生徒に
人気だったり
するのかな？
ちょっ
有水さん
そういうの
聞かないで
くださいよ！
そんなに
怒らなくて
いいだろ？

せっかく皆で楽しく食事してるんじゃないか
でも…
スル
スル
みつき…ここの料理はどうだい？
美味しいかい？
ビクッ
ビクッ
うそっ!!
ニヤッ
!!
グイッ

また
こんなところで
……
グニッ
グニッ
ビクッ
だめっ！
んっ
んっ
んっ
グッ
グニッ
安住君が
いるのに…
顔が真っ赤
じゃないか…
料理が熱かったか？

慌てて食べるからだぞ…
ビクッ
ビクッ
だめ…なんとかして逃げないと…
？
どうかした？
ビクッ
ドクッ

安住君…そんなに見ないで…
ううんなんでもないよ

やだっ私…こんな状況で濡れてる？
ジクッ
ビクッ
んっ
ビクッ
最低…

もぐ
もぐ
安住君…
ここの料理
美味しいだろう？
ゴク
はい！
本当に
美味しいです
良かった
やっぱり男の子は
食べっぷりが
いいなぁ

ここはチキンも
美味しいから
頼もう
まだ食べられる
だろ？
いやー
さすがにもう
お腹いっぱいです
ご馳走様です
……
そうか…
ところで
さっきの
話だが…

みつきは
男子に
人気なのかな？
もう…
その話は…！

ビクン
んっ
えぇ
人気ありますよ
頭もいいし…
それに…
ヤッ

美人だって……
えっ 安住君が褒めてくれた…？
んっ！ でもこんな状況じゃ…
喜べない！
そうかぁ やっぱりなぁ
父・親として嬉しいよ
ニヤッ
ビクッ
んんっ！
ビクン
グイッ
グイッ

ビクンッ
んふっ！
カシャンッ
スミマセン
落としちゃった…
トッ
ダメっ…
見られる！
あれ？
どこだ？

スッ
お取り替えしますね…
助かった……
ホッ
んふう……！
ビクンッ
ビクッ
ガクッ
ガクッ
!!
ズンッ

ニヤッ
……
ビクッ
さぁ…
そろそろ
帰ろうか…
ビクッ
最悪…
はぁ…
ウンコン

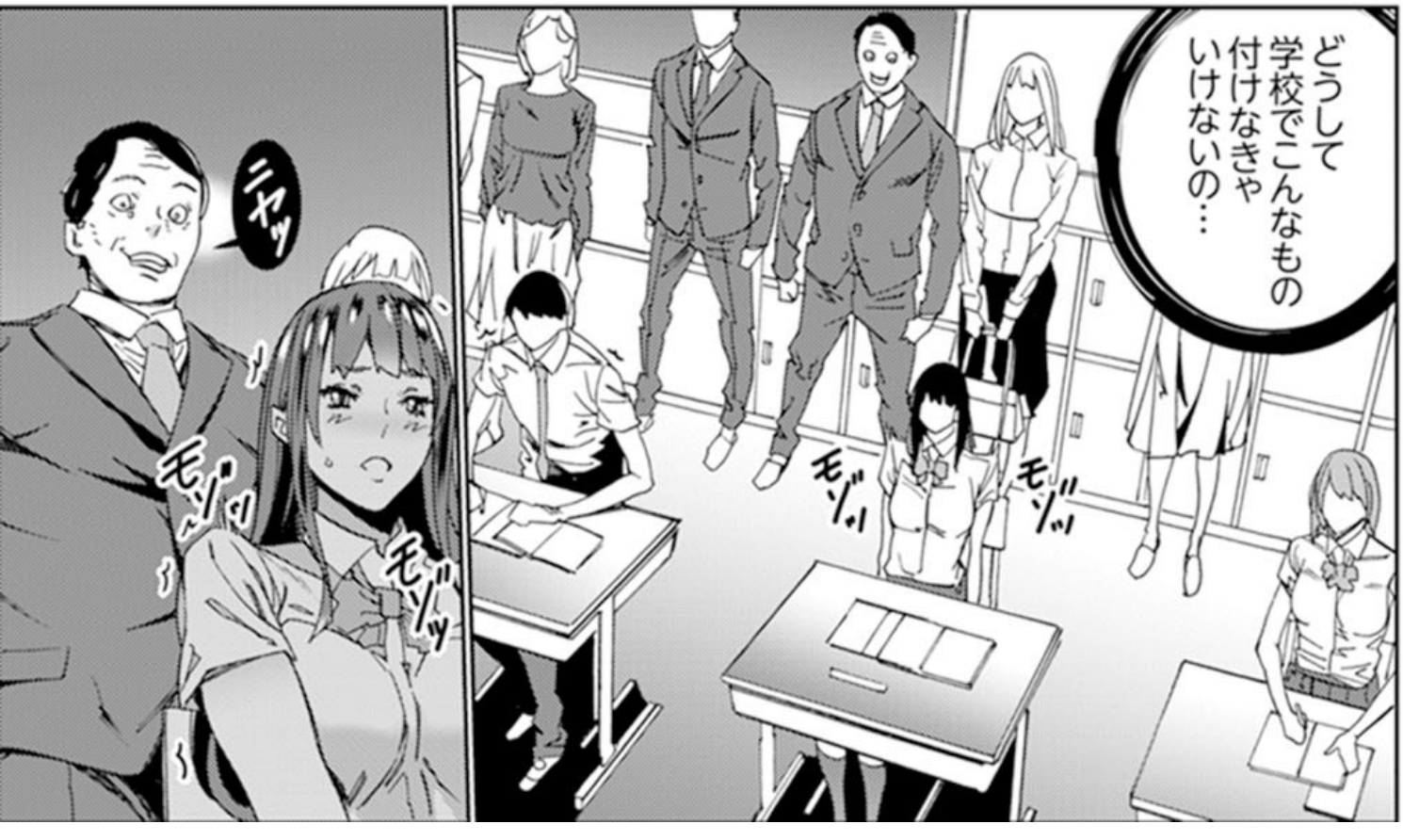
はい…
ガチャ
ちょっと
いいかな？
スッ
有水さん…
どどう
したんですか？
明日
授業参観が
あるみたい
だな……
えっはい…
そうですけど
…？
明日は私が
お母さんの代わりに
行って先生に
相談しようと
思うんだ…

うちの娘が
男子生徒と
不純異性交遊
していることをね
あ…安住君
のこと!?
なっ
やめて
ください!
何言ってるん
ですか!

いや…これは
大きな問題
だからな…
そんな!
安住君と私は
本当にそういう
のじゃ…

口では
何とでも
言える…
ゴッゴッ
そうだな…
どうしても
やめてくれと
言うなら…
明日 これを
つけて授業に
出るなら
黙っていてやろう
……
ズッ
えっ…!?

なんでこんなことに…
ビクッ
モゾッ
モゾッ
モゾッ
モゾッ


どうして学校でこんなもの付けなきゃいけないの…
ニヤッ
モゾッ
モゾッ
モゾッ
モゾッ

こうして
みつきの
保護者として
授業参観に
来れるなんて…
モゾッ
モゾッ
感慨深い
ものが
あるな…
カチッ
思い出す
……
ビクッ!!
ゴゴゴ
ゴゴゴ
みつきに
出会った日の
ことを…

あの頃は最悪だった……
何をやっても上手く行かず……事業も失敗し
ゴゴゴ
生きることに絶望して…
ザッ
グビッ
多額の借金を背負い…酒に溺れ…
妻は男を作って出て行った…

有水さんっ！
目が覚めたんですね！
そんな時に出会ったのが美希だった…
ん…

先生を呼んできますね
彼女との出会いが私を変えてくれた…
今までのことを話した上で彼女は私の心の支えになってくれた

緊張するな……
大丈夫よ
あの子
いい子だから
スッ
そして
これが…
……
はじめまして
……
みつきとの
出会い…

本当に？
病院では
あんなにしっかり
してるのに…
そうなんです
この前も
塩と砂糖を
間違えて…

はい…
よく言われます

こら変なこと
言わないで！
だって本当の
ことじゃん

今日は
安心しました…
お母さんの
相手がどんな人か
ドキドキして
たんです…
でも有水さん
いい人みたいだし
それに
こんな風に
してると…

仲良いんだね
……

なんか…
家族みたい

か 家族
…!!

こら！
みつき
私達はまだ
そんなんじゃ…
えー
そうなの？

……
この俺に…

また
持つことを
許してくれる
というのか…
ギュッ
一度
壊してしまった
家族を…

みつき…
こら！
大人を
からかうん
じゃない！
ギュッ
いてて…
ごめんなさい！
この日の
一言で俺は
救われた
気がした…
そして…
その日から

一緒に過ごす
時間が徐々に
増えていき

私の中で
二人は
無くては
ならない
かけがえのない
ものに
なっていった…
美希への
愛情は
本物だ…
だが…
みつきは…
それ以上の
存在だ…
そう…
だから…

みつきは誰にも渡さない…

ビクッ

ビクッ

だめ…もう声が…

ニヤ

カチカチッ

カチカチッ

ビクッ!!

ビクッ

ガタッ

ブブッ

ブブッ

うそっ!

……
んっ！
急にスゴイ…
激しくなった
……！
ブブッ
ブブッ
ブブッ
ブブッ
ひぐっ！
そうだろ…
みつき…
ビクッ
ビクッ
大事な
家族なんだ
……
……
ビクッ
ビクッ

誰にも
壊させる
わけには
いかないんだ
……
ビクッ
今のみつきは
私の思いのまま
……
…声が…
漏れ…
んっ…だめ…
気づかれちゃ…
ビクンッ
ビクンッ
ブブッ
ブブッ
こんな
ところで
変な声
出したら…
その我慢した
表情 堪らないよ
みつき
ムクッ
ムクッ

じゃあ
ここの三角関数の
問題を…
ビクッ
ビクッ
有水にやって
もらおうか…
有水！
へっ！
はっはい…！
前に来てくれ
ガタッ
嘘でしょ
こんな時に
最悪…
スッ
おーい！
ビクッ
我慢
出来ないよ
…もう…
ビクッ

ヤバッ…
フラッ
ガタッ
大丈夫？
ううん
ありがとう…
ギュッ
そんな目で
見ないで…
そんなに見られたら
…今の状況を
知られそう…
早く書いて
席に戻ろう…
スッ
スッ

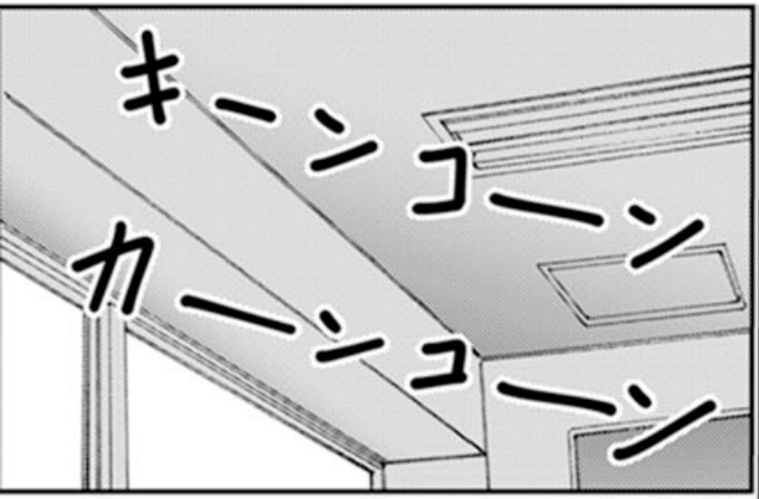
安住…
またあいつか
……
えっと…
許さんぞ…
私は許さん！
みつき…
ガタッ
ビクンッ
!!
私が守って
あげるからね
……
ブブッ
ブブブ
んんっ
ニヤッ

また強くなった…こんなんじゃ答え書けない…
ブイーン
ブブッ
どうした？難しいか？
いえ大丈夫です…
集中しなきゃ…集中すれば…
カッ
カッ
カチッ
バキッ
ワッ
ザ

出来ました……

スっ
スミマセン…

正解！
じゃあ席に
戻って


キーンコーン
カーンコーン

この後
三者面談が
あるからな
帰るなよ！

良かった…
バレなくて…
コロッ
コロッ

あの…
ガラッ
面談室
本当にやめてください……
授業中にあんなこと…
それが約束だろ？約束は守らなきゃな…
でも…！
ガラッ

いやぁー
お待たせ
しました！
……
どうか
しましたか？
いっ
いえ…
それじゃあ
始めましょうか？
ガタッ
有水は
お母様が再婚
されてから
随分明るくなった
気がします
お義父様の
お陰ですね
いやいや
そんな…
ご家庭では
どうですか？
新しい家族の生活…
大変なことも
あるかと
思いますが…

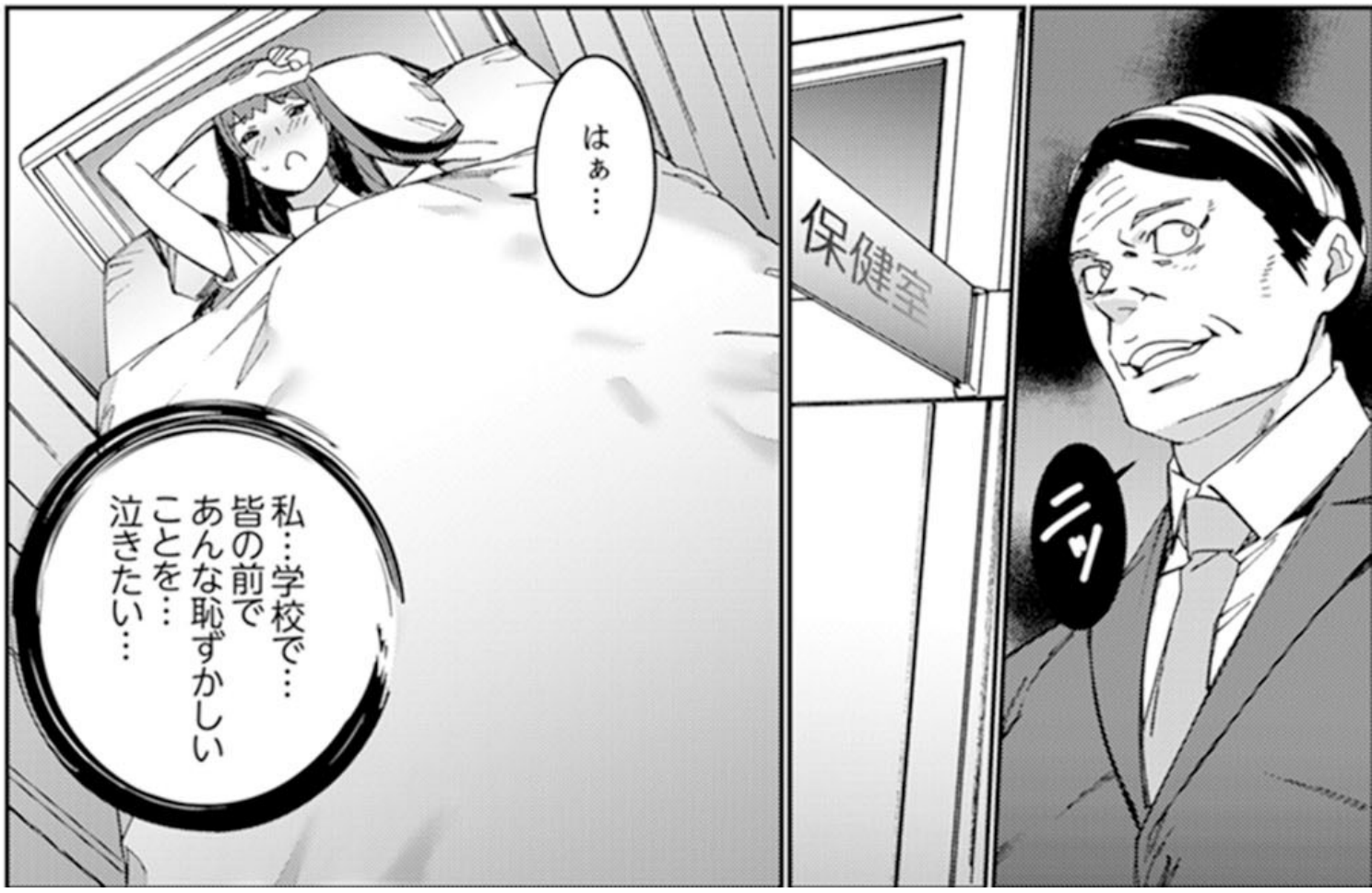
えぇ それなりに上手くやってはいるつもりです
まぁ年頃ですし色々と難しいこともありますが
有水はどうかな？その様子だとお義父様とは上手くやっているようだね
えっ!?
先生に…相談…？でもそんなことしたら…
ははっ照れることないのに
スッ
えっ
ピクッ
いきなり立ち入った話で失礼しました進路についてはですね…
!! やっぱりきたこんな…先生の前で…
グイッ

ニヤッ
ビクッ
頼りになる
いい先生だな
みつき…
グイッ
こんなこと
言えない…
ゼッタイ…
んっ…
……
またまた
おだてないで
くださいよ
先生は有水の
成績なら上を
目指せると
思ってるけど…
進学で
いいんだよな？
……
んっもう…
自分でなんとか
しなきゃ…
ははい…
まだ志望校は
決めてない
ですけど…
グッ

グッグッグッ
先生…
ちょっと
相談が…
はい…
何か…？
!!
ほぉ…
そっちが
その気なら…
まっまさか…
安住君との
ことを…
あの…
ちょっと
待って…
最近…
部活のせいか
帰りが遅いのが
少し心配でして…

へっ
いやーそれは顧問の先生に伝えておきます…
くっ
ニヤ
カオ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
んっ
んっ
ブブブブブ
ブブブ
ブブ
どうした有水…顔真っ赤じゃないか
大丈夫か？
だめ…もう抵抗出来ない…

すすみません…気分が少し悪くて…
保健室に行かせてください…
ブブ
ブブブ
グイッ
おぉそうかじゃあ後はお義父様と話しておくから休んでなさい
失礼します…
スッ


保健室
ニッ
はぁ…
私…学校で…皆の前であんな恥ずかしいことを…泣きたい…

スー
スー
スー
もう…疲れちゃったよ…
ブブッ
ブブブ
えっ！
何…いきなり動きだして…
ニヤァ
ガバッ
グニッ
みつき大丈夫かい？

あっ
有水さん
どうして…
カチッ
だめじゃないか
途中で
逃げ出しちゃ…
あっ
信じられない
この人…
保健室にまで
来るなんて…
んっ！
だってあんなこと
…耐えられない
です…
ブブッ
あっ
ブブッ

グイッ
ピクッ
んっ！
ヌポーン
ドロッ
プラン
プラン

こんなにグチャグチャにして…悪い子だね
はぁ
ビクッ
はぁ
ビクッ
いや…
ひっ
お仕置きが必要だな…
レロッ
!!
キャッ！
グニッ
グニッ
グニッ
ムニ
ムニ

ビクン
あっ
やだ…ずっと
我慢してたから
すごい…
気持ちいい…
ビクッ
んっ
ムニュ
ムニュ
クチュ
クチュ
クチュ
んっ
やめて…
保健の先生が
来ちゃう…
クチュ
ニヤッ
ズルズルじゃ
ないか
みつき…
!!
いやらしい
娘だ…
スッ
カチャ
カチャ

グッ
ググッ
いやっ！
んんっ！
ズブッ
ズッ
ズッ
んっ…スゴ…激しい！
ギシッ
あっ
ズッ
ズッ
あっ
ギシッ
ガクッ
ガク
んふっ

ガッ
ガッ
ギシッ
ガニッ
保健室ってのは
興奮するなぁ！
ギシッ
ガニッ
ガニッ
ガラッ
有水さん
起きた？
具合はどう？
大丈夫？
!!
やだ…
どうしよう…!!

だっ…！
ピクッ
大丈夫です…
もう少し
横になって
いれば……
開けるわよ…
スッ
有水さん？
そっ
そう…？
じゃあ用が
あったら
声掛けてね…
はっはい…

ホッ
よっ
良かった…
なんとか
誤魔化せた
けど…
……
あぁ…
たまらないよ
…みつき…
そんなに顔を
赤くして
我慢した姿…
はぁ
はぁ
もっと…
ビクッ!
グッ
もっと色んな
表情を
見せておくれ!!

先生がすぐそこにいるのに…
んっ！
ばれたらどうなるか考えてないの…？
ズ
ズッ
んっ！
やっ…
ままた…!!
ズッ
確かに見られたら困るなぁ
せ先生に見られたらどうするんですかっ…
んっん!!
ピクッ

あの…
だから…
へっ？
グッ
声を出しちゃ駄目だよ
んふっ！
ギッ
ギッ
んっ！

んっ
ズン
あっ
ズン
んっ
ドッ
ドッ
んっあっ
やっ
ドッ
ほらそんなに
声が漏れたら
気付かれちゃうぞ
ビクッ
ビクッ
お お腹が
ヒクヒクする
スゴイ…
嫌だけど…
ゾクゾク
んっ
ギュッ
感じちゃう
……!

ボソッ
みつき…
嬉しいよ
こんなに感じて
くれて…
フッ
んっ
そ…
そんなこと…
…でも…
私…こんな
状況なのに…
んっだめ！
ギシッ
ズバッ
ズドッ
ギシッ
んっ
ウソは
だめだろ！
ビクッ
ガタッ
……
有水さん？

有水さん？
スッ
んあっ！
ビクン
んんっ!!
クイッ
ドクン
だめっ！
イクッ……！
あふっ…
!!
ニヤッ

あれ…？
いつもみつきがお世話になってます
いつのまに…!!
有水さんのお父さん!?
良かった…気付いてないみたい…
有水さんもう大丈夫？
はい…ただの寝不足だったみたいです…

ありがとう
ございました
……
バタン
さぁ一緒に
帰ろうか…
……
ん？
どうした？
私…部活が
あるから
先に帰って
ください…
みつき！
スッ
テニス部
……

はぁ…
保健室で…
私…
嫌だったはず
なのに…
シュルッ
スッ
感じちゃう
なんて…
ガチャッ
!!
スッ
キャッ!

逢沢先輩!!
いたいた
もう練習始めるよみつき
ここ女子更衣室ですよ!
逢沢　悠真
テニス部先輩
ごめんごめん…でも…
何かあったの?落ち込んだ顔して…
えっ!?
なっなんでもないですよ…

本当に
何もないです！
本当に？
スッ
それに着替えて
たんですから
ノックくらい
してくださいよ！
さぁみんな
待ってるから
練習行きましょ！
ああぁ
だめだめ
気持ち
切り替えなきゃ
スッ
さぁ
頑張り
ましょー
わかったから
そんなに
押すなよ！

カコーン
パコーン
皆ケガしないように練習楽しもうね
みつき
はい
ちょっといい？

ストロークの時
なんだけど
もっと腰の
回転を意識して
はい…
こんな感じで
やってみよっか
スッ
こうですか？
スッ
どうですか？
ブンッ
そうだね…
あとは
スタンスを
もっと広く…
スッ
ドキッ

どうした？
やってみて
は…はい
やだっ…
こんなに
密着して…
先輩…指導
熱心なんだけど
距離が近いん
だよね…
じゃあ
構えてみて
クイッ
キャッ！
……
有水
いいよなー
ポン

ヒラッ!
うおー!
羨ましいぞ
逢沢!!
テークバックも
キレイに
しっかりと…
ギリッ!
ガシャ

はぁーやっぱり体を動かすの楽しいなぁー嫌なこと忘れられるし…
みつき！いいなぁー逢沢先輩に直接教えてもらえるなんて！
へっ!?いやー…たまたまだよ
うそーいっつもじゃんはぁ…私にもしてくれないかなぁ…
あはは…
うわぁー気まずいなぁ…
あれっ？部室にドリンク忘れちゃった…
ちょっと取ってくるね
スッ

あー
気まずかった…
逢沢先輩
人気あるからなぁー
変なウワサが
広まったら困るな…
ゴッ
ゴッ
グッ
気をつけ
ないと…
ガヤ
女子の
嫉妬って
怖いから
なぁ
はぁ…
ハッ

何ブツブツ言ってるの？
セッセンパイ！
!!
びっくりしたー
有水さんかと思った…
びっくりしたじゃないよ練習中に抜け出して
スッ
あっスミマセン
これ忘れちゃって…
スッ
本当に？てっきり具合が悪くなったのかと思っちゃったよ顔も赤いし
スッ
トン

スッ
あの…
センパイ…
汗も
スゴイよ…
あっ
やっと…
二人きりに
なれたね
今なら誰も
来ないよ…
クイッ
せっ
先輩…!?

せ先輩…？
あの…ちょっと
ち近いですよ…
？
スッ
クスッ
みつき…
照れることないのに…
先輩…
あの…
かからかわないでください…

そんなに
慌てて
戻らなくても
大丈夫だよ
ギュッ
キャッ！
スッ
ほら
練習に
戻りましょう
クスッ
えっせ…
せんぱ…
えっ!?
!!
んんっ！
キュッ
んっ
んっ

うそ…
んっ
んっ
ドキッ
ドキッ
先輩とキスなんて…
あ…あの…
ニコッ
んっ
プハッ
なんでこんな…
へっ…!?
ゴゴゴ

あっ
スッ
あのちょっ
な何してるん
ですか
ムニッ
ギュッ
あの…
ムニッ
先輩…
やめて…んっ
ビクン
ビクン
え？
どうして？
どうしてって
…んっ！
グニッ
グニュ
こんなこと
だめです…
んっ
ビクン
あっ！
ムニュ

もうっ!!
本当に…
ダメだって…
怒りますよ!
チュパ
チュパ
スッ
スルッ
グイッ
クリッ
クリッ
ビクッ
んっ
ビク
ペロッ
んっ
ペロ
ビクッ
あっ!
やっ…
ビクッ
ビクッ
ビクッ
チュパ
グイッ
チュパッ

あん…せ…せんぱい…
クイッ
んっ
ビクンッ
やだっそんな強引な…！
クチュ
クチュ
んっ
チュッ
ズ
あっ
あっ
だめ…私…安住君が…
ガタン
ガタンッ
あっ
ガタンパ

だめっ！
ビクッ
どうして？
付き合ってる
人いるの？
ひぐっ！
グイッ
グッ
グイッ
ビクン
ビクッ
んあっ！
はぁ
はぁ

だめっ
グッ
あの…
先輩…
待って
ください…
スッ
それは…
んっ
バンッ
あっ
有水さん…
!!

貴様!!
ガッ
うちの娘に
何してるんだ!
ガガッ

有水さん!!
やめて!
ぐっ!
ガガッ
フンッ!
んっ!

いいか！
二度と娘に
近づくな!!
学校に
このことを
言われたく
なければな
わかったか！
行くぞ
みつき!!
待って
有水さん！
？
ガシッ
いいから
来なさい！
倉元…？

グイッ
有水さん！
落ち着いて！
キャッ!!
ドン
グッ
えっ？
えっちょっ…
どこへ…？

スッ
みつき…
怖かった
だろう…
今キレイに
洗ってあげる
からね…
!?
あいつに
触られた
ところを…
スルッ
やっ！
やめて!!

シュコッ
有水さん…
だめ…
聞いてない…
さぁ
はじめるよ
みつき…
あっ…
いやっ！
グイッ
ヌル
ビクッ
ヌル
こら
逃げるん
じゃない！

あっ
あっ
有水さん…
もう自分で
やりますから…
遠慮しなくて
いいんだよ…
ビクッ
グニッ
グニッ
だって家族
じゃないか…
ほら
足を開いて
……
グイッ
ビクッ
クチュッ
クチュ
ちょっ！

いやっ
悪い子だ…
レロッ
スッ
みつき…
あんな男に
触られてこんなに
濡らして…
は離して
下さい…
クチュ
クチュ
隙が
あり過ぎるん
じゃないか？
女の子なんだから
気をつけなきゃ
ダメだろう…
んっ
ペロッ
ガニッ

ガッ
いやっ！
あっ
レロッ
グニッ
だっだめ
有水さん…
くぱぁ
グイッ
私が守って
あげるからね
……
大丈夫だよ
みつき…
!!

いやぁ
グッズブブッ
んぁっ
ひぐっ
ズバーンッ
いや…助けて…誰か…
はぁ
はぁ
んあっ！
ズブブッ
んっ
あっ
ズブッ

んあ
私また感じてる……
ズッ
ズッ
ズッ
んっ！
ズッ
ズッ
ズッ
みつき…!!
お前もお母さんも私の大事な家族なんだ！
いつの間にこんないやらしい子になっちゃったんだろう…
ズッ
誰にも！
ズッ

壊させやしないぞ!!
んぐっ!! んあぅ!!
んあああぁっ!
あうんっ!
蔵元… 学校でお養父さんとトラぶってるぽかったけど大丈夫かな?
電話にもでないし… ついここまできたけど…

はあ
はあ
？
とはいえ
どうしたもんか
…明かりは
誰も出ないな…
やっと…
終わった…
みつき…
？
今日は
お母さんは
朝まで仕事
だから一晩
二人きりだよ…
ニヤリ

今夜
有水さんと
二人きり
なんて…
バターン
そんなの
無理だよ
…
バッ
……
とにかく
今日は友達の
家に…
ゴッ
ゴッ
ピンポーン
みつき…
ビクッ

ガチャ
ガチャ
ガチャ
ガチャ
みつき…？
おいで一緒に
食べよう…
ご飯だよ
…
ガッ
さぁここを
開けてくれ…
ドンッ
ドンッ
ガチャ
ガチャ
ガチャ
ガチャ
ガチャ
シーン…
……
やめて
もうお願い…

いなくなった…？
？安住くんから着信…なんだろう…
20:12
安住くん不在着信
スッ
？
そうだ！安住くんに助けを…
ガラッ
みつき…どうして開けてくれないんだ

！
有水さん!!
？
なんだ…？
その荷物は
…？
ここれは…
スッ
ギッ
…今日は
友達のところに
泊めて
もらいます…
何言ってるんだ…
こんな夜に
出かけるなんて
許さんぞ！

スッ
バッ
待て！みつき！
ガニッ
きゃあっ！
どうして言う事を聞いてくれないんだ！
グッ
ガッ
きゃっ！
やめてください！いや！
グイッ

ガッ
離してください！
ピクン
あっ
グンッ
ももう…やめて…
行かせないよ…どこにも…みつき…
んっ
ギュウッ
ひゃう！
ビクン
ペロッ
んふっ

んあ
あっ
体は素直じゃないか…みつき…さぁ心も素直になりなさい
んっ
嫌なのに…なんでこんなに感じるの…？
んっ
んっ

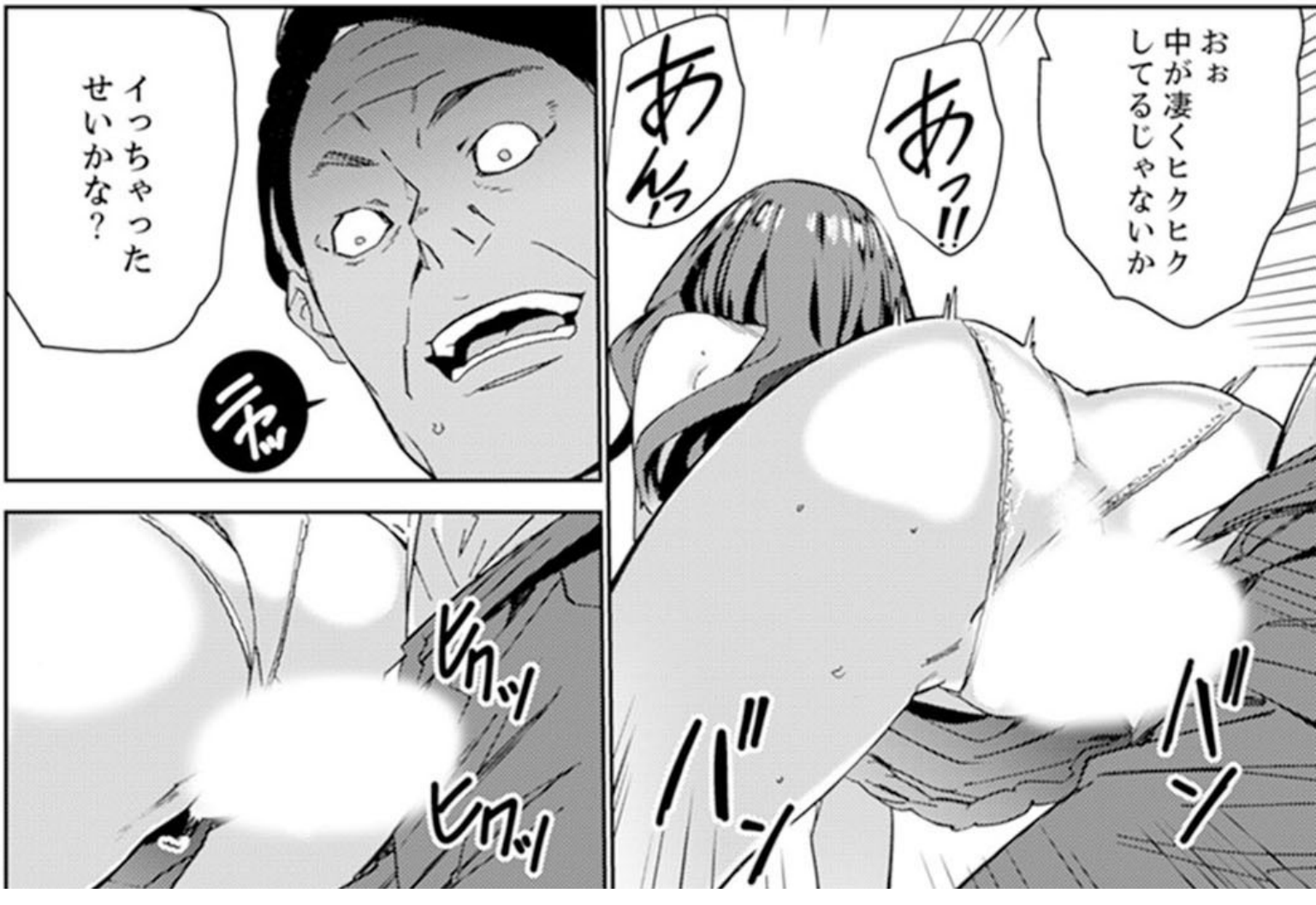
はぁ
ペロ
あっ！
やっ！
んっ
ビクン
ビクン
ジュプッ
はぁ
ペロッ
んぁん！
美味しいよ
みつき…
あっ
ビクン
レロッ
ぢゅぢゅぶっ
ビヘッ
あぁん！
あう！
レロッ
んっ！

ジュル
ほらドンドン溢れてきたよ…
ビクンッ
んっ！もうだめ…！
ビクンッ
ああんっ
プハッ
なんだみつき！イってしまったのかい？
ビクンッ
はぁ
最悪だ…
ビクッ
はぁ
ニヤァ

もう…やめて…
ビクッ
ビクン
ゾクッ
何言ってるんだ…
はあ
はあ
？
二人きりの夜はこれからだろう…
一緒にもっと気持ちよくなろう…
カチャ
カチャ
ブー
ブー
ブー
安住くん

あ安住くん…
ブー
ブー
…!!
ツー
ツー
シュッ
OFF
もう誰にも邪魔はさせないよ…
スッ
やっぱり変だ…
有水

ゲゲッ
さぁ
いくよ…
ズッ
ブル
ブル
ズッ
いんんぁ!!
はあ
ビクン
ビクン
はあ


おぉ
中が凄くヒクヒク
してるじゃないか
あっ!!
あんっ
バン
バン
ニヤ
イっちゃった
せいかな?
ヒクッ
ヒクッ

まったく
いやらしい娘だな
こんなに
ぐちゅぐちゅにして
…
やっ
ズバン
ズバン
あっ
あっ
んっ
こんなに
嫌なのに
…
ガクッ
ジワ…
なんで
こんなに
気持ちよく
なってるの…
あ
んぁ
あん！
あ
そうか
そんなに
気持ちいいか

そんなこと…
ウソは
よくないな…
だって
こんなに
ビクビク
してる
じゃないか
いやぁ…
またイっちゃうんじゃないのか？
だめ…
本当に
また…

ズッ
ズッ
んっ！
ビクンッ
んあああん!!
ビュッ
ドクーン
はぁ
はぁ
ビクッ
ビクン
ピンポーン
ピンポーン
宅配でーす！
？
ピンポーン

ドン
うるさいなぁ……今はそれどころじゃ……
ドンッ
ドンッ
有水さーん！いませんかぁー！
ドンッ
ドンッ
まったくこの忙しい時に…
ガチャ
はいはいどこからの荷物ですか？
なっ！
ドンッ
ドンッ

あっ！
ガンッ
安住!!
倉元っ！
？
スッ
あ 安住くん…
どうしてここに…？
スッ
倉元…行こう…

スッ

うん…

ガッ

待て！
どこにも
行かせないぞ！

!!

俺の家族に
手を出すな!!

スッ

バンッ

ヘタ…
あなたなんか！
家族じゃない!!
みみつき…
待て…
待ってくれ…
スッ
バタンッ
みつき!!
その後
みつきと美希は
家を出て行った
…
結局また
私は…
一人きりに
なってしまった…

全てを失い…
もう生きる希望も
何もかも…
グビッ
一体何が
いけなかった…
いつどこで
間違えた…
これから
どうすれば
いい…？
えー
本当に？
いや…
まだ…
私は…
ニヤ…
もうやめてってー
そんなんじゃ
ないよー

非常停止したエレベーターで・・・義父と暗闇SEX【完全版】

発行日　2017年11月1日

著者　OUMA
発行　モバイルメディアリサーチ

この物語はフィクションです。登場する人物・団体・名称等は架空であり、実在のものとは関係ありません。
本作品の全部あるいは一部を無料で複製・転載・配信・送信したり、ホームページ上に転載することを禁止します。
本作品の内容を無断で改変、改ざん等を行うことも禁止します。
また、有償・無償にかかわらず本作品を第三者に譲渡することはできません。

© OUMA 2017